



進化がつなぐ地球と生物の物語

開催日 令和8年6月14日(日) 13:30~16:00

会場 愛媛大学理学部キャンパス S32講義室
(オンラインでの参加も可能です)

会場定員 100名 (参加費 無料)

(高校生や一般の方に向けた親しみやすい内容です)

《プログラム》

◆13:00~13:30 受付

◆13:30~13:40 前原 常弘 理学部長 挨拶

◆13:40~14:40 講座1

◆14:55~15:55 講座2

◆15:55~ 閉会挨拶

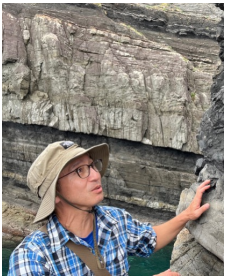
参加申込

6/11 まで

【講座1】 “恐竜時代” の陰の主角: 私たちへと続く哺乳類進化の足跡をたどる

くすはし なお

(理学部・准教授・楠橋 直)



中生代は時に“恐竜の時代”と呼ばれることがあります。たしかに、当時の恐竜類、特に非鳥類恐竜類は人気者で、中生代はそれらが主角として語られがちです。しかし、恐竜類の陰では哺乳類が着実に進化を続けていました。

本講座では、2億年以上におよぶ哺乳類進化史の2/3を占めながらも、光の当たることがあまり多くない、中生代の哺乳類たちの世界に焦点を当て、主に化石の古生物学的研究の面からご紹介します。



Gobiconodon haizhouensis

【講座2】 魚はどうして多様なの? ~川と海を旅する魚から得たヒント~

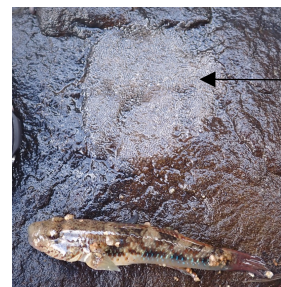
おおと ゆめき

(理学部・准教授・大戸 夢木)



海水魚は、川や湖といった淡水域を目指すことで、多様化を遂げてきました。それでは、なぜ彼らはあえて過酷な淡水域を目指すし、どうやって様々な淡水環境に適応したのでしょうか?

本講座では、小さくて地味なハゼ類に注目し、その生態や体のしくみを手がかりに、この謎に迫ります。野外調査や微量元素分析、さらには遺伝子解析で見えてきた、海から川への冒険のドラマと、その進化的な魅力をお伝えします。



卵

ゴクラクハゼの卵と、それを保護するオス親

参加申込方法

6月11日までに右の二次元コード または下記URLからwebフォームにアクセスし必要事項をご記入ください。

<https://forms.office.com/r/MCPwCZwwxg>

6月12日までに会場参加・オンライン参加に関する情報を返信します。

(参加申込期限後に参加を希望される方は、当日、会場にいらしてください。定員に達していない場合のみ参加可能です。)

問い合わせ先: 愛媛大学理学部公開講座実行委員会 (ehime.ri.koudai@gmail.com)

後援: 愛媛大学SDGs推進室

